

港のたより



(一社) 寒地港湾技術研究センター
COLD REGION PORT AND HARBOR ENGINEERING RESEARCH CENTER



サハリン(コルサコフ港)と北方四島を結ぶ貨客船(国後島 古釜布港)

Contents

行事報告

設立30周年 記念式典・記念講演の報告 ②

港湾ニュース

「北海道マリンビジョン21コンテスト2016表彰式」について ③
標茶高校が行うクルーズ船へのおもてなしが
土木学会地域活動賞を受賞 ④
大規模な地震・津波を想定した防災訓練実施について～平成29年度
釧路川総合水防演習・広域連携防災訓練(サテライト会場:釧路港)～ ⑤
日本港湾協会企画賞を受賞した
12フィートコンテナでの小口輸送の取組 ⑥
北極海航路航行モジュール船の道内初寄港について ⑦
道内6港湾の連携による農水産物輸出促進に向けた取組について ⑧
新千歳空港工事現場見学会を開催しました ⑨
北方四島共同経済活動官民現地調査 ⑩

シリーズ

日本築港史 現代語訳(小樽港) ⑫

センター通信

第2回 CPC 交流セミナー ⑮
メールアドレス登録のお願い ⑮
助成事業報告 ⑯

技術情報紹介

UAVを用いた公共測量マニュアルに準拠した写真測量
～i-Constructionによる建設現場の生産性革命～ ⑮

お知らせ

「平成30年度 自主調査研究テーマ募集」のご案内 ⑮
第3回 CPC 交流セミナー開催のご案内 [予告] ⑮

編集後記

..... ⑯

vol.122
2017.10.6

行事報告

■ 設立 30 周年 記念式典・記念講演の報告



挨拶 佐伯 浩会長

今年 7 月 7 日当センターが設立 30 周年を迎えたことから、7 月 22 日(土)「設立 30 周年記念式典・記念講演」を開催しました。

はじめに記念式典として、当センター佐伯 浩会長の挨拶、国土交通省港湾局長及び国土交通省北海道開発局長からのご祝辞をいただきました。その後、当セ

ンター川合紀章理事長からの「30 年の歩み報告」が行われました。

記念式典終了後、「チェンバロ奏者で綴る北前船の歴史と港の役割」との演題でチェンバロ奏者であり、現代版北前船プロジェクト代表 明楽みゆき様による記念講演が行われました。

記念講演ではお米、塩、お酢、砂鉄等、北前船が北海道に運んできたもの、また鰯粕、昆布をはじめ北海道から本州に運ばれたもの及びこれらがいろいろな形で現代も地域経済、産業に関わっていること等、貴重な講演をいただきました。

当日は一般の方も含め 143 名の参加をいただきました。

記念講演をいただいた明楽みゆき様はじめお集まりいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

なお、挨拶、30 年の歩み報告及び記念講演の詳細につきましては「海と港 No.35」に掲載します。



ご祝辞 国土交通省港湾局長（代理）稲田雅裕様



30 年の歩み報告 川合紀章理事長



ご祝辞 国土交通省北海道開発局長（代理）角南国隆様



記念講演 明楽みゆき様

News 港湾ニュース

■「北海道マリンビジョン 21 コンテスト 2016 表彰式」について

北海道開発局 農業水産部 水産課

平成 29 年 7 月 3 日に「北海道マリンビジョン 21 促進期成会」（以下、「期成会」という）の総会が関係者約 80 名の出席により札幌市内で開催され、総会に併せて、「北海道マリンビジョン 21 コンテスト 2016」の表彰式が行われましたので報告します。

各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献する優れた取組を表彰し、取組の更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会が主催し、当局の後援により「北海道マリンビジョン 21 コンテスト」を平成 20 年度から開催しています。

今回、第 9 回目となるコンテストでは、個別取組部門(期成会長賞)に羅臼地域マリンビジョン協議会及びウトロ地域マリンビジョン協議会が受賞し、それぞれ関係者に表彰状が授与されました。



羅臼地域への表彰状授与の様子



ウトロ地域への表彰状授与の様子

受賞した取組の概要は以下のとおりです。

羅臼地域

これまで元漁業者によるガイドを実施していましたが、地域資源を活用した体験メニューの拡充による周遊ツアーの充実化と関係者との連携による受入体制の強化を図り、知床羅臼の自然を体験する交流拠点形成を目指し、町民ガイドによる観光案内を実施するため、認定制度を導入しました。これまでは無許可で市場への出入りや撮影するなど課題も生じていたことから、衛生管理や安全面に配慮した見学ルールを再設定しました。漁業の観光資源化を図るため、町民ガイドの募集・研修会を実施し、10代から70代までの72名を認定しました。幅広い年齢層と様々な職種の方々が関わる町民参加型の活動であり、漁業中心の町から観光に目を向ける町民が増えるなど、他地域への参考となる良い事例となっていることが評価されました。

ウトロ地域

サケ定置網漁業の操業風景は、普段は見られない光景であり、漁業のPRへの活用も期待できることから、観光資源化が望まれていました。一方、同じ海面を漁業作業、観光船運航で利用しているにもかかわらず、相互理解不足となっていたほか、観光客の活動時間と合わないなどの課題もあったことから、情報交換会を開催し、安全情報の共有、相互の連絡体制の確立を図るため、関係者による試行を行い、見学時のルールを確認しました。平成 28 年からは、一般の参加者を対象にモニターツアーを実施しました。内容は、網起こし見学のほか、同年度から供用開始したウトロ漁港の人工地盤 2 階からの荷さばき作業の見学、漁協婦人部食堂での朝食、ふ化場見学を組み合わせたものとなっています。サケを生産から流通、増殖の視点で紹介するなど地域の資源を活用した取組が着手されたと言うことができ、今後の発展性に期待されることが評価されました。

標茶高校が行うクルーズ船へのおもてなしが 土木学会地域活動賞を受賞

釧路開発建設部 築港課

釧路港は、新釧路川を挟み西港区と東港区で構成された重要港湾であり、日本有数の食料供給基地を背後に抱え、農畜産業や紙・パルプを中心とした基幹産業を支える東北海道地域の物流拠点として重要な役割を果たしています。また、「釧路湿原国立公園」、「阿寒摩周国立公園」、世界自然遺産である「知床」等の豊富な観光資源を背後に有し、海産物や農産物等の新鮮な食材の宝庫であり、観光地としてのポテンシャルも高いことから、釧路港には多くのクルーズ船が寄港しています。クルーズ船が主に利用する東港区は、釧路フィッシャーマンズワーフ(MOO)、全天候型緑地(EGG)、釧路市観光国際交流センター、北海道立釧路芸術館等、国際・国内交流機能に加え、平成23年の旅客船ターミナルの供用に伴い、クルーズ船の寄航数が増え、市民団体や高校生によるクルーズ船へのお

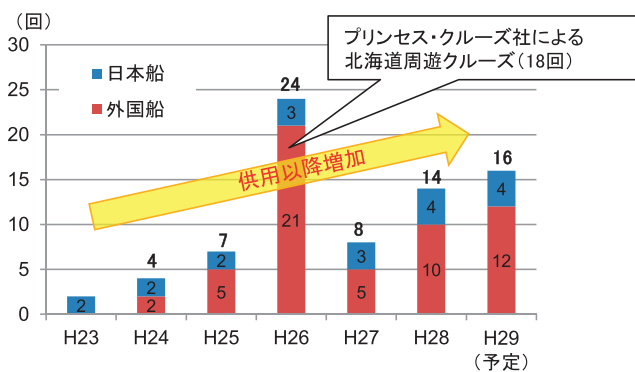
もてなし活動やイベントの開催など、賑わい空間が形成されています。

そのような中で、釧路港に寄港するクルーズ船の外国人観光客へ英語による道案内など、おもてなし活動を行っている北海道標茶高等学校に、土木学会北海道支部から地域活動賞が贈られました。

北海道標茶高等学校は、課外活動の一環として、釧路港の旅客船ターミナルにクルーズ船で訪れる外国人観光客へのおもてなし活動を平成27年度から行っています。岸壁上において英語で道案内をするほか、全天候型緑地(EGG)において書道、着物の着付などの日本文化を紹介するおもてなしにも英語で対応しており、外国人観光客にも大変好評です。これらの活動が、土木構造物を通じて地域の発展や貢献に寄与されていると土木学会北海道支部から評価されました。



釧路港東港区



釧路港クルーズ船寄航回数



受賞状況



書道体験の様子

■ 大規模な地震・津波を想定した防災訓練実施について

～平成 29 年度 釧路川総合水防演習・広域連携防災訓練 (サテライト会場：釧路港)～

北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課

平成 29 年 6 月 17 日(土)、北海道内初の試みとして、河川・港湾事業者がそれぞれの会場において同じ時間帯で地震・津波を想定した広域的な防災訓練を実施しました。

サテライト会場の釧路港では、東港区耐震強化岸壁において、以下 8 項目の実働訓練を行いました。

①避難訓練

避難情報伝達と港湾工事作業員による避難訓練。

②通行止訓練

道路陥没を想定し災害拡大防止の車両通行止め訓練。

③漂流者捜索・救助訓練

漂流者を船舶で捜索し、洋上での救助訓練。

④港湾巡視訓練

港湾業務艇による被害把握訓練。

⑤油防除訓練

油吸着マットによる流出油回収訓練。

⑥航路啓開訓練

潜水士による障害物の特定と起重機船による滞留物除去訓練。

⑦被災状況調査訓練

港湾施設の被害状況調査訓練。

⑧緊急支援物資輸送訓練

耐震強化岸壁を拠点とし、船舶からトラックへの物資輸送訓練。

訓練には、港湾関係団体 18 機関(138 名)が参加し、各機関の役割や相互連携を確認しました。また、来賓として鈴木貴子議員ほか皆様方が、サテライト会場で視察されました。当日は天候にも恵まれたことから一般見学者も 40 人以上来場され、緊迫感ある訓練を多くの方々に披露することができました。

今後も、より一層の安全・安心な港湾活動の実現に向け継続的に訓練を実施し、災害時にも関係機関が連携して迅速な対応ができるよう努めてまいります。



開会式



被災状況の調査状況



漂流者の救助状況



緊急物資の輸送状況

日本港湾協会企画賞を受賞した 12 フィートコンテナでの小口輸送の取組

室蘭市 港湾部 港湾政策課

去る5月24日、神戸市内で開催されました日本港湾協会の第90回定時総会の場において、室蘭市が取り組んでいる12フィートコンテナを活用した鉄道貨物と国際海上輸送を連携させる事業が、同協会の企画賞を受賞いたしました。

今回の受賞にあたっては、北海道開発局の推薦をいただきましたが、この取組が、我が国において農水産品の輸出促進への貢献だけではなく、ドライバー不足問題や地球温暖化対策への対応が評価をいただいたところです。

室蘭港は、コンテナヤードのある崎守多目的国際ターミナルの近くまでJRの引込線が伸びているのが特徴となっており、鉄道輸送と海上輸送の一貫した輸送が比較的容易にできるというメリットがあります。

また、室蘭市の立地として、胆振、後志地区という北海道内でも農業及び水産業の盛んな地域を後背地として抱えているという恵まれた地理的な優位性を生かしながら、海外において知名度が高くなっている北海道産の農水産品や加工品の輸出を促進するため、道産食品への人気が高まっている東南アジア、とりわけタ

イに着目をしたところです。

平成27年度には、室蘭からタイ、タイから室蘭、相互の12フィートコンテナによる海上輸送実験を行い、また、現地において「室蘭港ポートセミナー」、「12フィートコンテナ見学会」を開催し、現地の荷主や商社など、多数の方々の出席をいただきました。

参加者のなかには、すぐにでも利用したいという非常に前向きな意見もあるなど、タイ現地においても、12フィートコンテナを利用した小口での国際海上輸送のニーズがあることを実感しました。

しかしながら、本取組をさらに推進するためには、リーファーコンテナの電圧の問題によるコンテナの改良や、タイから北海道へ輸入する貨物、いわゆる帰り荷の問題があること等、様々な課題も判明しております。

この日本港湾協会企画賞の受賞を機に、それら課題の解決に向けた取組として、国内はもちろんのこと、タイ現地における企業や関係機関への訪問を継続的に行うなど、今後も12フィートコンテナによる鉄道輸送と海上輸送の一環した輸送の取組を進めてまいりたいと考えております。



崎守多目的国際ターミナル



室蘭港ポートセミナー



市長記念写真



受賞式

■ 北極海航路航行モジュール船の道内初寄港について

苫小牧港管理組合 総務部 港湾振興室 港湾振興課

アジアと欧州を結ぶ最短ルートである「北極海航路」を航行する貨物船が、平成 29 年 6 月 26 日(月)に苫小牧港へ寄港しました。

今回寄港したのは、オランダ船籍のビッグロール・ビューフォート(23,143 トン)で、北極圏のロシア・ヤマル半島で進められている液化天然ガス(LNG)基地建設のため、鉄骨や配管、機器などを組み上げた大型構造物(モジュール)を運搬する貨物船です。

この度、ロシア海域で合流する予定の北極海航路の航行に必要な砕氷船との時間調整と、苫小牧港関係者等との意見交換のため寄港したものです。

北極海航路を運航する貨物船の道内への寄港は初めてであり、これに合わせ船内で、苫小牧港利用促進協議会による歓迎式典と、苫小牧港管理組合が入居するハーバー F ビルにおいて講演会が開催されました。

歓迎式典には、港湾関係者など約 70 人が出席し、

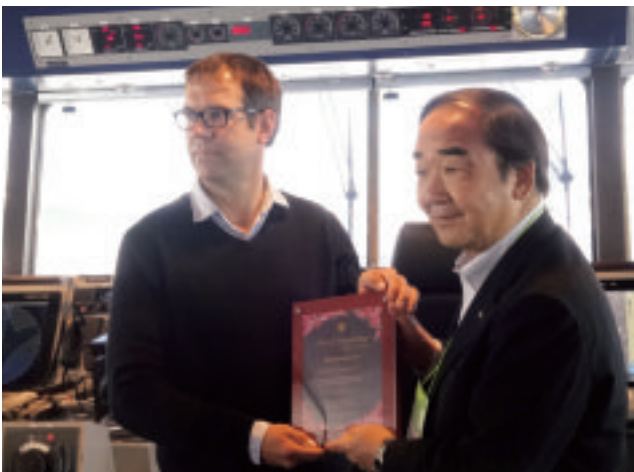
岩倉苫小牧市長は歓迎の挨拶で、「日本と世界経済にとって重要なチャレンジ。苫小牧港としてしっかりと取り組んでいきたい」と述べ、パトリック・マーティン船長に記念盾を贈りました。

講演会では、ビッグロール SHIPPING のパウケ氏により同船の紹介、基地建設に携わる日揮株式会社の植木氏より、基地建設の概要のほか、北極海航路の戦略的活用に向けてなどの説明があり、出席者と活発な意見交換がなされました。

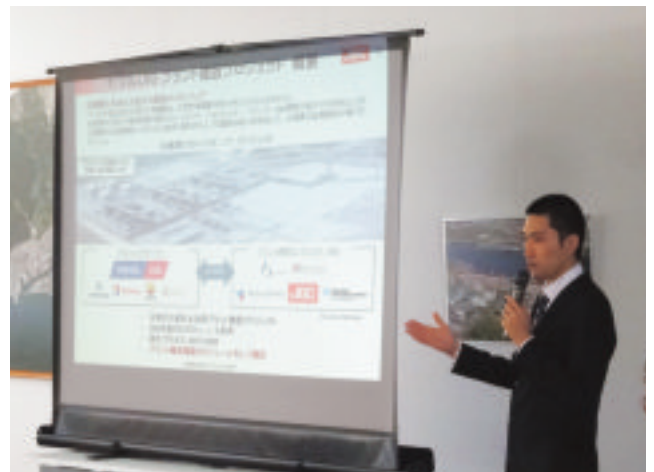
北極海航路の利活用に向け、国や北海道では情報収集や研究成果の共有等を行うほか、北海道経済同友会では課題や戦略などの検討を進めており、苫小牧港管理組合においても、輸送貨物等の調査研究等を進めているところですが、今回のモジュール船の寄港を実績として、北極海の活用可能性についてさらなる検討を進めていきたいと考えております。



接岸の様子



歓迎式典の様子



講演会の様子

道内 6 港湾の連携による 農水産物輸出促進に向けた取組について

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

■はじめに

我が国の農林水産物・食品の輸出は、平成 25 年から 4 年連続で増加し、平成 28 年輸出実績は 7,502 億円となっています。政府は、更なる輸出促進に向けて、「未来への投資を実現する経済対策」（平成 28 年 8 月閣議決定）において平成 31 年の輸出額 1 兆円目標を掲げています。

北海道総合開発計画では平成 37 年に道産食品輸出額を 1,500 億円とする目標を掲げており、道産食品の輸出増加による政府目標達成への貢献を目指して取組を進めています。

■港湾における取組み

国土交通省港湾局では、港湾管理者が策定した農水産物の輸出を促進するための行動計画（農水産物輸出促進計画）を国土交通省が認定した場合に、屋根付き岸壁や冷凍・冷蔵コンテナの電源供給設備の整備に対して支援を行う制度を平成 29 年度予算において、創設しました。

本年 5 月、北海道 6 港湾（苫小牧港、石狩湾新港、紋別港、根室港、枝幸港及び増毛港）の港湾管理者から連名で農水産物輸出促進計画の申請がありました。

港湾局では、5 月 23 日に、全国で初めて本計画を認定し、認定書の授与が行われました。

■道内認定 6 港湾における取組について

増加する農水産物の輸出需要に対応する港湾（輸出拠点港湾）として、石狩湾新港、苫小牧港を設定し、石狩湾新港においては、小口積替支援施設および冷凍・冷蔵コンテナの電源供給設備の整備が行われます。また、苫小牧港においては民間による大型冷蔵倉庫の建設が予定され、輸出環境の改善が図られます。

水産物を水揚げする港湾（連携水揚げ港湾）においては、屋根付き岸壁の整備促進による品質確保を通じた商品価値の向上が図られます（紋別港、根室港、増毛港、枝幸港、苫小牧港）。

このほか、施設整備以外の取組として、輸出拠点港湾と連携水揚げ港湾が情報共有を行い、本計画の着実な推進を図るための体制を整えることにより、道産農水産物の輸出額増加に向けて取組を進めていく予定です。

北海道開発局においても、これら施設整備の促進及び 6 港湾の連携強化など、本計画の着実な推進を図るための支援を行って参ります。



■ 新千歳空港工事現場見学会を開催しました

札幌開発建設部 空港対策官

札幌開発建設部では、平成 29 年 8 月 8 日(火)に新千歳空港において、関係自治体を対象とした「新千歳空港工事現場見学会」を開催しました。

本見学会は、空港整備事業に対する理解を深めていただくことを目的に平成 24 年度から開催し、今年で 6 回目を迎え、報道機関等を含めて 25 名の参加があり、昨今の新千歳空港における国際線需要の急激な増加に伴う航空機動線、国際線エプロン、国際線ターミナルビルの混雑の解消、今後も増加が見込まれる国際線需要に対応するため、各機能等を向上させることにより、訪日外国人旅行者受入れ機能の強化を図る「新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業」の工事を見学して

いただきました。

事業実施に伴い、平成 29 年 5 月に移転した新たな事業所において、中村千歳空港建設事業所長から事業の目的、工事の概要についての説明の後、現地では、航空機が駐機するコンクリート舗装の施工手順、誘導路の用地造成などの工事に関することやその他本事業の実施内容についても活発な質問をいただくなど、見学者の皆さんには空港整備事業に興味を持っていただいたものと実感しております。

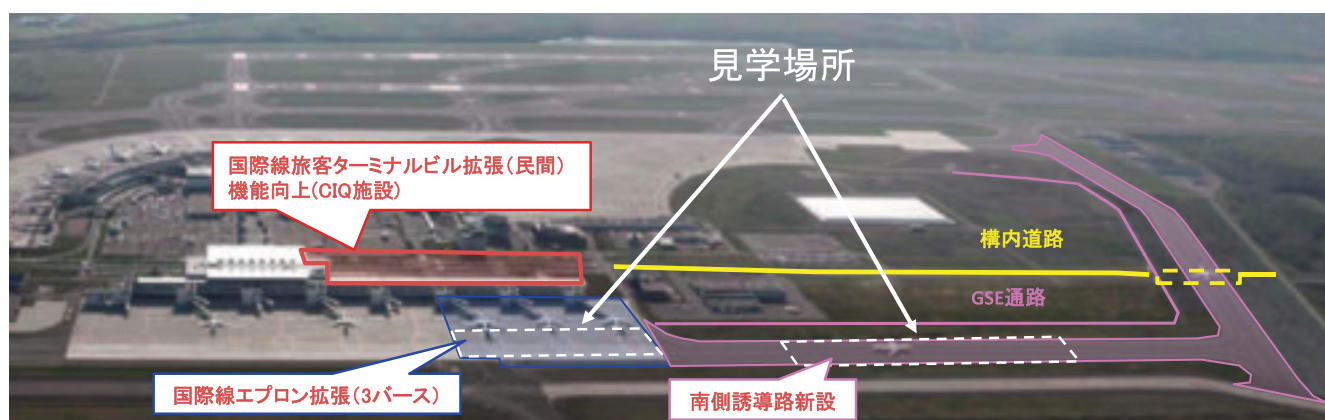
今後とも本見学会を契機に広く新千歳空港の整備についての理解を深めていただく取組を引き続き進めて参りたいと考えています。



中村所長による事業概要説明



見学状況（誘導路新設工事）



新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業完成イメージ

■ 北方四島共同経済活動官民現地調査

(一社)寒地港湾技術研究センター 企画部長 宮部秀一

はじめに

平成 28 年(2016)12 月の安倍総理大臣とプーチン・ロシア連邦大統領との会談を踏まえた共同経済活動に関する北方四島(択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島)への官民現地調査団の一員(港湾)として、平成 29 年 6 月 27 日から 7 月 1 日まで国後島(古釜布港)、択捉島(内岡港)及び色丹島(穴澗港及び斜古丹港)を視察する機会を得たため、概略を報告します。

1. 官民現地調査団の概要

調査団は行政(国、北海道、自治体)、関係団体等、69 名により構成され、両国間で協議が整ったインフラ(港湾含め)部門をはじめ 6 分野について、日々 3～4 グループに分かれて関係施設の見学、ロシア側(サハリン州政府、利用者等)との意見交換を行いました。

2. 行程、視察港(表—1、図—1 参照)

各島間の移動、宿泊は北方墓参事業等に使用されて

表—1 行程表

月 日	行 程	視 察 港	備 考
6 月 27 日	根室港 → 国後島		入域手続(古釜布港)
28 日	国後島 → 択捉島	古釜布港	
29 日	択捉島 → 色丹島	内岡港	
30 日	色丹島 → 国後島	穴澗港、斜古丹港	
7 月 1 日	国後島 → 根室港		出域手続(古釜布港)



国後島古釜布港沖における沖荷役



色丹島穴澗湾 天然の良港



択捉島内岡港 岸壁背後に水産加工場



色丹島穴澗湾における沈船、放置船

いる「えとぴりか号(1,124 総トン)」で行いました。

3. まとめ

限られた4港だけの現地調査でしたが感じた点は以下のとおりです。

- ①港湾は岬、湾等の自然地形を利用して配置されており、すべての港湾において防波堤を確認できなかった。外郭施設としては一部に防波護岸が整備されているのみであった。
- ②岸壁天端が高い。特に外洋に面した岸壁の天端高は高く、防舷材設置のための工夫も見られた。(流水、高波浪対策と思われる。)
- ③鋼構造(栈橋、鋼矢板式)が多い。重力式構造と思われたのは古釜布港において埋め殺し型枠として鋼材を用いた岸壁のみであった。
- ④近年は下請企業も含め、韓国企業が港湾建設に携わっている。
- ⑤三島すべてで生コンクリートプラントを確認した。また、択捉島ではアスファルトプラントも確認した。
- ⑥北方四島と言っても港湾については同一整備水準ではない。特に古釜布港の施設は老朽化が進行している。

おわりに

今回、官民現地調査団の一員として、はじめて北方四島を訪問しました。

視察は限られた港湾でしたが、沖取り(沖荷役)をはじめ、数多くの沈船、座礁船等の存在等、北海道内では見られない状況も確認できました。一方、岸壁直背後に水産加工場を整備する等、効率的な活用方法も視察できました。

また、船員曰く「1年に数度しかないベタなぎ」が続き、各港とも防波堤が整備されていない影響が確認できませんでした。現状把握には高波浪時における港内波浪の状況確認が必要と感じました。

紙面の都合上、本調査の詳細につきましては「海と港 No.35」に掲載します。

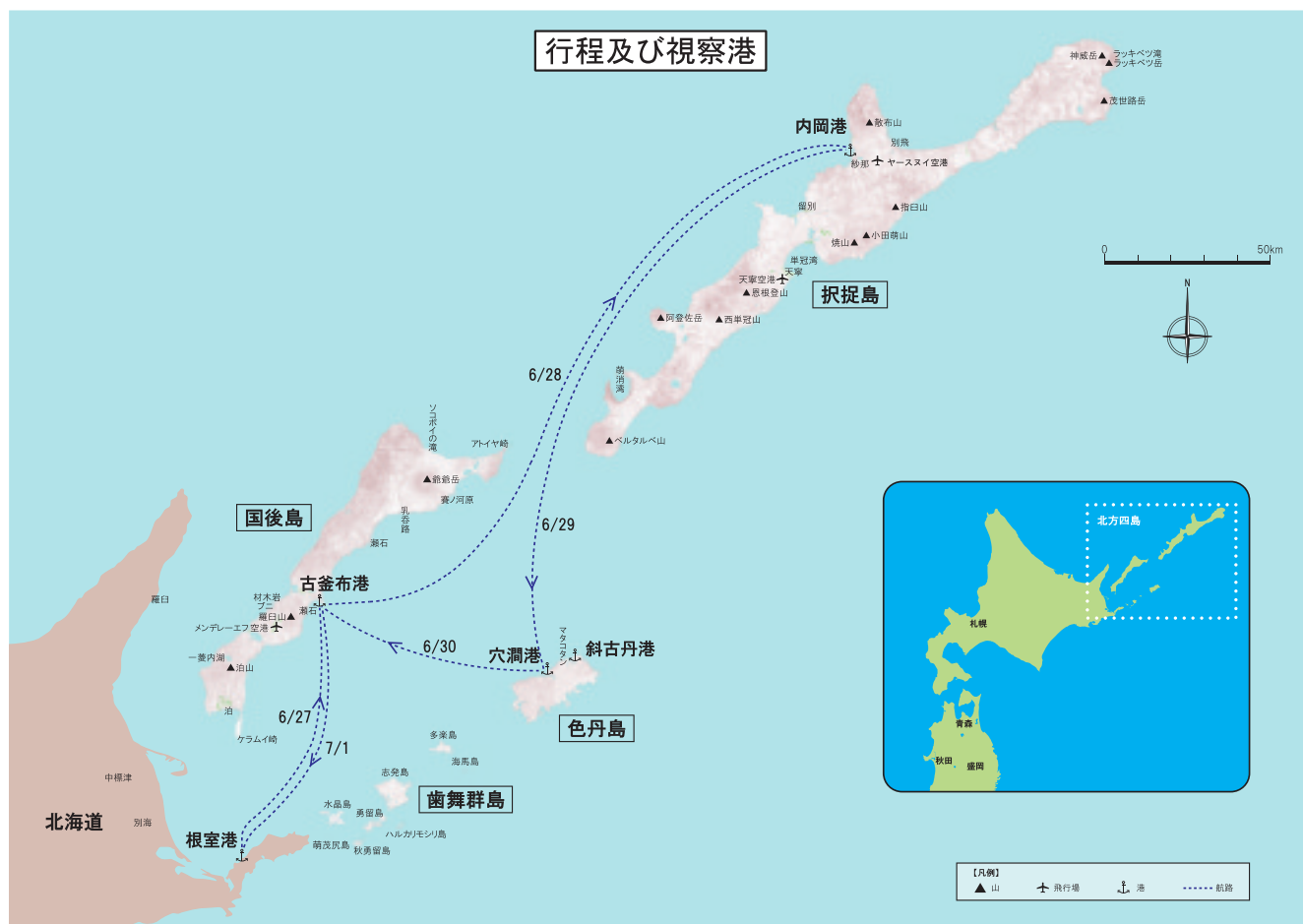
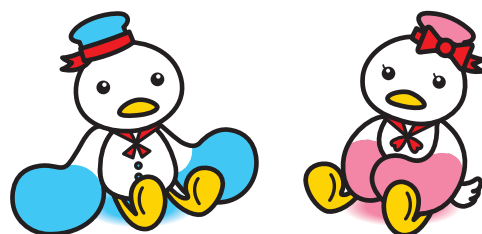
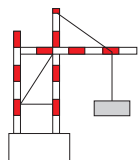


図-1 視察港



技 術 情 報 紹 介



UAV を用いた公共測量マニュアルに準拠した写真測量

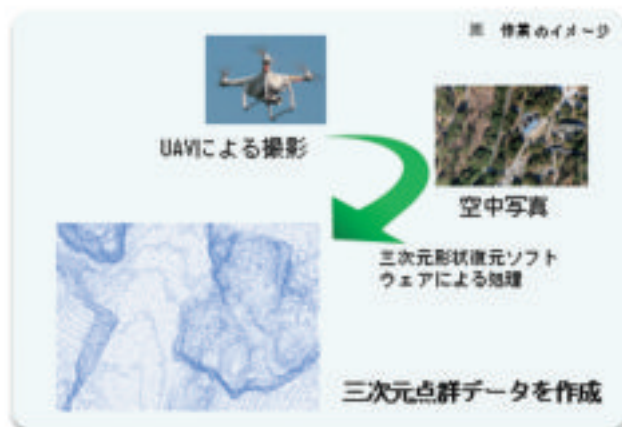
～ i-Construction による建設現場の生産性革命～

近年の技術的進歩により UAV(Unmanned Aerial Vehicle、無人航空機、ドローン、マルチコプタ)が身近になっている。公共事業においては、社会環境の変化により企画から、測量・調査、設計、施工、維持管理といった事業全体を最適化することが進められており、「情報化施工」と「CIM(Construction information modeling)」を統合させた「i-Construction」により生

産性向上に取り組んでいる。このような ICT の全面的な活用にあたって、新基準の整備が進められ、ドローンを活用した空中写真測量および空中写真による三次元点群測量について、平成 28 年 3 月に「UAV を用いた公共測量マニュアル(案)」として公表され、建設現場における生産性の向上に貢献している。



UAV を用いた空中写真測量



UAV を用いた空中写真による三次元点群測量

(国土交通省国土地理院「公共測量」ホームページより)

ドローン空撮測量は、ドローンに搭載した市販のデジタルカメラで撮影した連続写真を、専用のソフトウェアで画像解析を行うことで、三次元データを作成することができ、写真測量技術の一種といえます。写真は、航空写真測量と同様に飛行コースでラップさせて撮影します。画像解析により各写真の特徴点抽出と写真間の対応付けを自動的に行うことで、カメラ位置

(X、Y、Z、Yaw、Pitch、Roll)を推定し、ポイントクラウドとよばれる、三次元座標をもった点を大量に得ることができます。航空写真測量と比べ、低空で撮影した高解像度画像を用いることから、より詳細な地形を得ることができます。一方、航空レーザー航空測量のように、建物や樹木の高さを取り除くフィルタリングは難しく、得られる三次元データは数値表層モデ

【お問い合わせ／資料請求】

札幌本社 企画部
011-662-3331
info@ahec.jp
お気軽に、お問い合わせ下さい。

Alpha Hydraulic Engineering Consultants Co., Ltd
株式会社 アルファ水工コンサルタンツ
〒063-0829 札幌市西区発寒 9 条 14 丁目 516-336
TEL 011-662-3331 FAX 011-662-3408
ホームページ URL <http://www.ahec.jp/>

ル(DSM)となります。このように、ドローン空撮測量は、航空写真測量と航空レーザー測量の中間的な特長を有する測量手法と言えます。

ドローン空撮測量のもう一つの大きな特長は、撮影

機体や解析ソフトとも比較的安価で、かつ手軽に使用できることです。これまでは航空測量の専門者に限られていた空からの測量が、建設コンサルタント会社や中小の測量会社にも、ぐっと身近になってきました。



弊社による撮影例（当別町）



■「平成 30 年度 自主調査研究テーマ募集」のご案内

当センターが実施する自主研究について、平成 30 年度の自主研究テーマの公募を実施いたします。自主研究テーマの募集は、会員の自主研究事業への参加機会の提供として、平成 26 年から実施しているもので、積雪寒冷地の氷風雪・波浪の制御及び利用に係る港湾技術及びこれに関連する技術並びに港湾の利活用に関する調査研究に努め、もって積雪寒冷地において冬に強い港湾の整備を促進し我が国の港湾及び地域社会の発展に寄与することを目的とする当センターが実施するべきテーマとして、現在必要とされているテーマ及び近い将来必要と思われるテーマを広く求めます。応募要領の詳細は、当センターホームページに掲載していますのでご確認ください。

■ 第 3 回 CPC 交流セミナー開催のご案内 予告

会員参加の Face to Face による小規模な講演会スタイルの交流セミナー「第 3 回 CPC 交流セミナー」を下記内容で開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 29 年 10 月 20 日(金)17:30～

場 所：寒地港湾技術研究センター 会議室

テーマ：北方四島における港湾の現状(共同経済活動現地調査結果)

講 師：寒地港湾技術研究センター 企画部長 宮部秀一

お詫びと訂正

前号(121号)現代語訳 日本築港史の「はじめに」のところで港湾調査会について記述しました。設立年につきまして、明治40年(1907)と記述しましたが正確には明治33年(1900)の誤りでした。お詫びして訂正します。正しくは以下のとおりです。

港湾調査会：明治33年(1900)、内務大臣監督の元に港湾に関する制度・計画・設備・その他重要事項を調査審議する機関として設立。

明治初期から後期における我が国港湾建設(港湾調査、修築計画等)はお雇い外国人技師に委ねられており、本調査会設立により日本人技術者が港湾の調査・修築計画を担うようになった。



道東沖のサンマ漁が8月22日から、主力となる棒受け網漁の大型船の水揚げにより、今季の本格的なサンマ漁がスタートしました。今年は、過去最低だった昨年を下回る不漁

の予想のなか、小型船を含めた水揚げ量は昨年の同時期を大きく上回っているようです。事実、札幌周辺のスーパーなどでは、例年通り1匹100円前後の価格で販売され、季節の移ろいを感じながら秋の味覚を楽しむうえでは、嬉しい限りです。

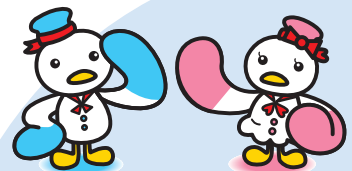
さて、(一社)寒地港湾技術研究センターは、この7月に設立30周年を迎えました。設立の昭和62年当時はバブル景気の絶頂期で、公共事業費はこの年から増加に転じ、人口も伸びを続け、漁業生産量は現在の3倍近い1200万トン台をキープし、「少子高齢化」や「限界集落」といった言葉が無縁の時代でした。現在を見渡しますと、産業構造の変革などによる地域の縮小、ある意味では成熟した時代で、それに見合った公共事業、質の高いインフラが求められ、必要かなとの思いを一層強くしているところです。

(M. O)

表紙の写真：サハリン(コルサコフ港)と北方四島を結ぶ貨客船(国後島 古釜布港)

サハリン(コルサコフ港)と北方領土を結ぶ貨客船は5～11月は週1～2便、3日程度かけて、択捉島、色丹島、国後島を経由してサハリンに戻る。

写真はイーゴリ・ファルフトジノフ(4,575総トン、全長89.98m、喫水5.3m、乗客定員150名)。撮影時(6月)は岸壁上の陸上クレーンで荷役が行われていた。



港のたより VOL.122

2017年10月6日

(一社)寒地港湾技術研究センター
〒001-0011

札幌市北区北11条西2丁目2番17号

セントラル札幌ビル5階

TEL(011)747-1688

FAX(011)747-0146

<http://www.kanchi.or.jp>